

株主の皆さまへ

2024年度 **中間**
報告書

2024.4.1 ▶ 2024.9.30

NHKニッパツ

日本発条株式会社





まっすぐに。しなやかに。

平素より格別のご高配を賜り
厚く御礼申しあげます。
株主の皆さまにおかれましては、
今後とも一層のご支援を賜りますよう、
よろしくお願い申しあげます。

代表取締役社長執行役員、COO 上村和久

Q

前年同期と比較した
2024年度上期の業績について
教えてください。

A

情報通信関連事業が好調に推移し、
増収増益を達成しました。

売上高は3,912億円、営業利益229億円、経常利益
269億円、親会社株主に帰属する中間純利益は215
億円の実績となりました。

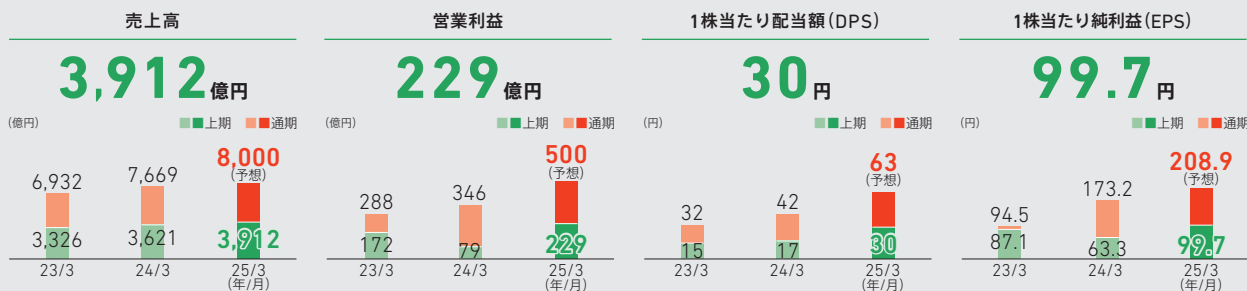
前年同期に対し、売上高は290億円増加していま
すが、そのうちの139億円が海外拠点の為替換算差
によるものです。

前期低調であったHDD関連事業の数量の回復、為

替影響による利益の押し上げ等により、営業利益は
149億円の増益となりました。2024年9月末に為替
が円高ドル安に振れたことから営業外の為替差益は
大きく減ったものの、経常利益、最終利益も増益を確
保しています。

● 事業セグメント別の状況

懸架ばね事業は、主に米欧拠点において、売価改善
や他拠点からの応援品の増加等により収支が改善し
ました。中国拠点においても北米拠点への応援品の
増加等により固定費が抑えられたことから黒字とな
り、事業全体の収支は改善しました。



その他財務指標についてはファクトブック
をご覧ください

<https://www.nhkspg.co.jp/ir/library/factbook>



シート事業は、タイや国内での自動車の生産台数の減少に加え、開発費収入の減少や北米における車種・品種等の構成悪化等により、減収減益となりました。

精密部品事業は、モーターコアやHDD用機構部品の数量増加等により増収増益となりました。

DDS(Disk Drive Suspension)事業の前年同期は、HDD市場の需要が大きく落ち込んでいましたが、今年に入り数量は回復に向かっています。また、円安ドル高による為替の追い風もあり増収増益となりました。

産業機器ほか事業は、半導体関連事業が回復し、円安ドル高による為替の追い風もあり増収増益となりました。

Q 当初の計画と比較して
2024年度通期業績の見通しは
いかがでしょうか。

A DDS事業を中心とした
情報通信関連事業が好調に推移し、
全社として増収増益の見通しです。

自動車関連事業は、懸架ばね事業とシート事業を中心に計画に対して、自動車生産台数の減少に伴う数量の減少が続く見通しとなっていますが、HDD関連事業は、好調に推移する見込みです。また、モーターコアや半導体関連部品も堅調に推移する見通しであり、全社としては当初計画を達成する見込みです。



**2026中期経営計画
(以下、26中計)について
教えてください。**



**自動車関連市場、情報通信関連市場
ともに回復する見込みであり、
需要拡大の波に乗り過去最高益を目指す。**

経営目標(売上高および損益)

2027年3月期の売上高は、8,500億円を目標としました。26中計では、自動車関連市場と情報通信関連市場ともに需要が伸びる見通しであることから、数量増に伴う売上高の増加を見込んでいます。この好機を確実に捉えつつ、自動化の推進や生産性の向上を図ることで、利益率の向上を実現し、過去最高益の更新を目指します。

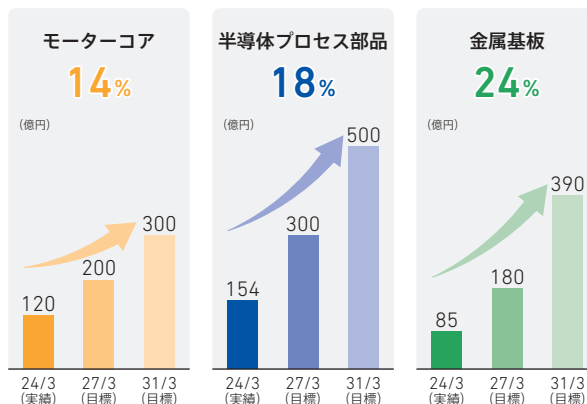
株主還元

株主還元に関する26中計の目標は、配当性向30%以上とし配当金400億円を計画しており、さらなる引き上げについても検討していきます。あわせて自己株式取得についても、株主の皆様への還元策の一環として位置づけ200億円を計画しています。

成長事業の長期目標を設定

自動車の電動化や半導体市場の拡大により、今後の成長が見込まれるモーターコア、半導体プロセス部品、金属基板事業の2031年3月期までの長期目標を設定しました。具体的には、売上高の年平均成長率(CAGR)目標を掲げています。今後の事業成長にどうぞご期待ください。

■売上高年平均成長率(CAGR) 期間:24/3期~31/3期

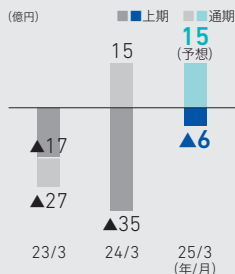


懸架ばね事業

売上高

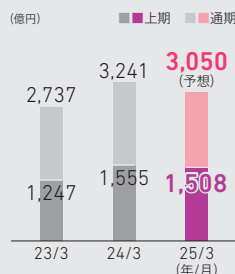


営業利益

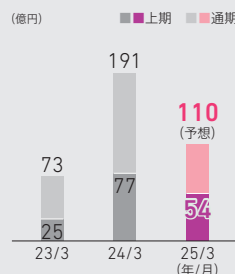


シート事業

売上高

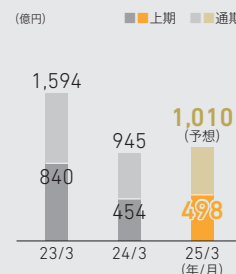


営業利益



精密部

売上高



※23/3には、DDS事業が含まれており24/3から、DDS事業を分けています。

■ 2026中期経営計画 財務目標とキャッシュアロケーション

		24/3期 (実績)	26中計 (目標)	キャッシュイン		キャッシュアウト	
売上高・損益		売上高	7,669億円	8,500億円	営業CF 2,700億円 ^{※1}	投資 2,500 億円	人的資本投資
		営業利益 (営業利益率)	346億円 (4.5%)	520億円 (6.1%)			500億円
		経常利益 (経常利益率)	478億円 (6.2%)	570億円 (6.7%)			DX ^{※2} 投資
		当期純利益 (当期純利益率)	391億円 (5.1%)	430億円 (5.1%)			200億円
財務指標	投資効率	ROE	10.4%	10%以上	政策保有株式売却 150億円	株主還元 600億円	CN ^{※3} 投資
		ROIC	6.1%	7%以上			100億円
	株主還元	配当性向	24.2%	30%以上			金融機関新規借入 250億円
							700億円
							事業投資
							1,000億円
							配当
							400億円
							自己株式取得
							200億円

※1 営業CF2,700億円は、本来の営業CF1,700億円にキャッシュアウトの投資に含まれる費用1,000億円(人的資本投資300億円、DX投資40億円、研究開発投資660億円)を加算しています。

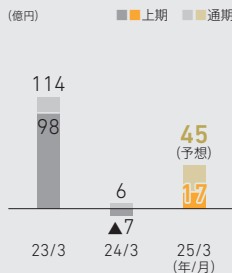
※2 デジタルトランスフォーメーション ※3 カーボンニュートラル

2026中期経営計画の詳細はこちらをご覧ください。 <https://www.nhkspg.co.jp/hubfs/nhkspg.co.jp/pdf/ir/plan/2024.pdf>



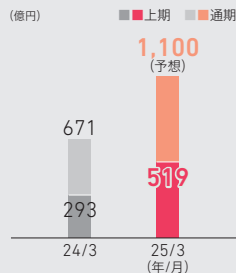
品事業

営業利益

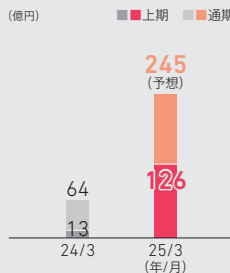


DDS事業

売上高

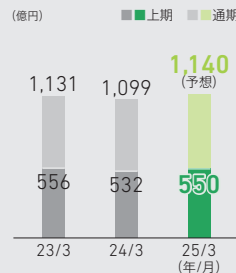


営業利益

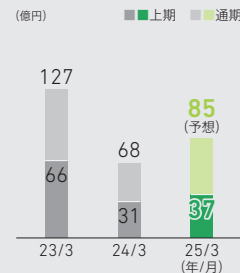


産業機器ほか事業

売上高



営業利益



成長分野への積極的な投資による生産能力増強

当社は、電動車分野や情報通信分野など、今後成長が見込まれる分野に積極的に投資を行っています。

電動車分野では、電動車のインバーター用の金属基板の生産能力増強のため新しい生産棟を駒ヶ根工場(長野県)に建設します。当事業は、放熱部品のキーパーツとして車載向けを中心に採用され売上の拡大が見込まれているため、2024年3月期の売上高85億円から2031年3月期には390億円を目指します。

情報通信分野では、半導体プロセス部品を製造する宮田工場(長野県)の生産能力増強のため新しい生産棟を増設し、2024年6月に竣工式を行いました。今後も投資を順次行い、当事業の売上高については2024年3月期の154億円から2031年3月期には500億円を目指します。



金属基板の新生産棟起工式



新生産棟が完成した宮田工場

「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に選定

当社は、株価指数「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に選定されました。本指数は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される株価指数で、株式会社JPX総研および株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っています。



ニッパツ横浜FCシーガルス準優勝

当社は、「ニッパツ横浜FCシーガルス」とスポンサー契約を締結し、応援しています。今シーズン、2024プレナスなでしこリーグ1部優勝を目指して戦いましたが、惜しくも準優勝(2位)という成績でシーズンを終えました。来年度も優勝を目指して応援していきますので、引き続き皆さまのご声援をお願いします。



各種展示会に出展

「ジャパングolfフェア 2024」

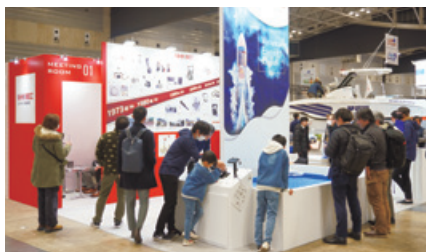
2024年3月に日本ゴルフ用品協会主催の本展示会が横浜で開催され、当社グループの日本シャフトが出展しました。日本シャフトは、N.S.PROブランドを中心に完全国内生産を行う、国内唯一の総合ゴルフシャフトメーカーです。日本シャフトのブースでは、契約選手のキャリア・ウェブプロのトークショーとサイン会を実施しました。



「人とくるまのテクノロジー展 2024」

2024年5月(横浜)と7月(名古屋)に、自動車技術会主催の本展示会に出展しました。

「Braking Barriers」というテーマで、電動車が普及する未来に向かって当社グループが殻をやぶっていく姿勢を表現し、電動化や自動運転化に関する最先端の製品や開発品を紹介しました。



「ジャパンインターナショナルボートショー 2024」

2024年3月に日本マリン事業協会主催の本展示会が横浜で開催され、当社グループのニッパツ・メック(以下、メック)が出展しました。メックは、船舶用のリモートコントロールシステムの開発・製造を行っています。メックのブースでは、プールにプレジャーボートの模型を浮かせた操船体験コーナーを設け、自社開発したスマートフォンアプリでの操船体験を実施しました。

ニッパツレポート2024を発行

2024年11月、ニッパツレポート2024(統合報告書)を発行しました。今回から報告対象読者は「株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆さま」とし、特に株主・投資家の視点を意識しています。

ニッパツの将来の事業機会やリスクへの対応を考慮し、持続的な成長を目指すストーリーを盛り込んだ内容に仕上げました。

<https://www.nhkspg.co.jp/sustainability/report>



株主アンケート結果のご報告

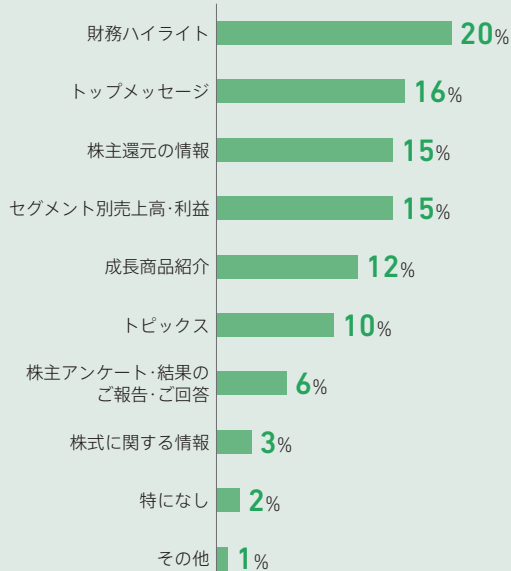
当社は、株主の皆さまの声をとお聞かせいただくため、株主アンケートを実施しています。

「株主の皆さまへ 2023年度第2四半期報告書」にてご協力をお願いした結果、多くの株主様からのご回答をいただきました。

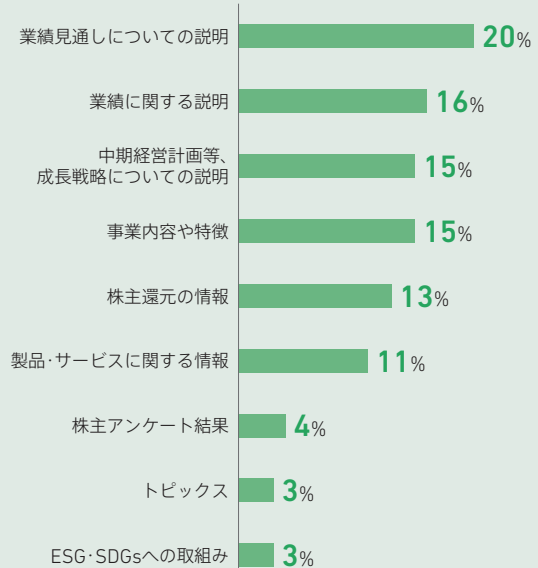
ここにアンケートの集計結果の一部についてご報告いたします。

アンケート集計結果

○ 株主通信でご関心をお持ちになったページをお選びください



○ 株主通信の記載を充実してほしい情報をお選びください



多くのご回答ありがとうございました。

皆さまよりお寄せいただいたご意見・ご要望等は、今後の株主通信に活かしていきます。

いただいたご意見・ご要望に対するご回答

Q 自動車の電動化への対応を具体的に教えてほしい

A 当社は「自動車の電動化への対応を加速」することを経営方針に据え、以下のような取組みを進めています。

懸架ばね事業、シート事業

電動化の進展により、自動車には大きく重いバッテリーが搭載されるため、走行距離が短くなり、車室空間も狭くなります。

当社の懸架ばねとシートは、現在の機能を維持しつつ、より軽量でコンパクトな設計を実現しており、高い付加価値をお客様から評価されています。自動車の電動化をビジネス拡大のチャンスと捉え、これらの事業をさらに強化していきます。

精密部品事業、産業機器ほか事業

精密部品事業では、電動車の駆動用モーターに使用されるモーターコアを生産しています。また、産業機器ほか事業では、電動車のインバーター用の金属基板を生産しています。これらの製品は、電動車市場の拡大を見据え、積極的な設備投資を通じて売上高の拡大を目指しています。

(具体的なモーターコアおよび金属基板の目標売上高は3ページに掲載されています。)

Q 良い人材の確保が成長につながるので、従業員への投資を強化してほしい

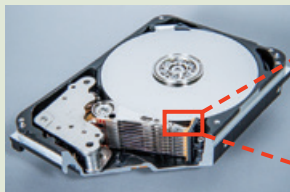
A 2026年度中期経営計画のグループ基本方針「人を大切にする」には、従業員も含まれています。この方針に基づき、今後3年間で累計500億円の人的資本投資を計画しています。具体的な取組み内容は、以下の表に示しています。

テーマ	施策
働きがいのある職場	・多面的思考を持つ人材確保に向けた採用手法導入 ・年功要素の廃止と処遇の見直し ・脱属人化を目的とした教育体系の刷新
働きやすい職場	・システム活用による業務効率化と可処分時間増加 ・従業員のパフォーマンス最大化に向けた労働条件の整備
安全・安心な会社	・重筋作業の軽減と健康相談窓口の強化 ・社員の士気を守るためのハラスメントの撲滅

社会のデジタル基盤を支えるHDD用サスペンション

➤ HDD用サスペンションとは

ハードディスクドライブ(HDD)のディスク上の磁気データを読み書きする磁気ヘッドの位置をコントロールする微細な板ばねです。1つのHDDに、多いものは22個のHDD用サスペンションが使われています。



HDD



HDD用サスペンション

➤ HDD用サスペンションの用途

動画サービスやクラウドサービスなどを支えるデータセンターでは、データの保存のために大量のHDDが使用されます。HDDのデータ読み書きには、当社の製品が活躍しています

HDD用サスペンション



HDD用サスペンション市場の
世界シェア **第1位** (50%超)

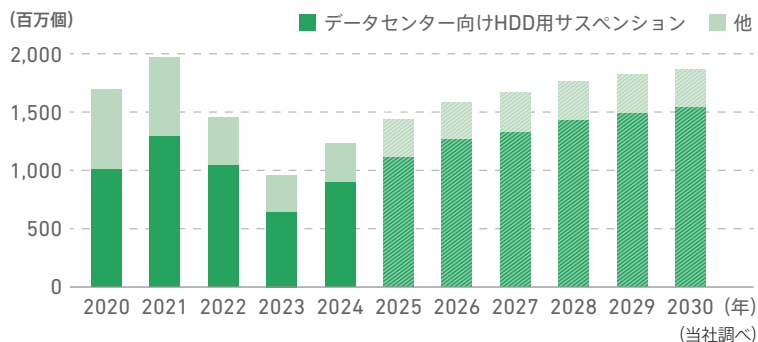
《当社がお客様に選ばれる理由》

- 設計、解析、評価技術力が高い
- 生産技術力と品質管理力が高い
- 生産設備の開発力が高い
- 日本、中国、タイに拠点を持つ

➤ 将来の需要見通し

データセンター向けHDD用サスペンションの需要は2023年を底に2024年以降増加していく見通しです。

これに伴い当社の売上高も今後、拡大していく見込みです。



会社概要

(2024年9月30日現在)

商号	日本発条株式会社
創立	1939年(昭和14年)9月8日
資本金	170億956万6,312円
従業員数	5,197名(単独) 20,524名(連結) ※臨時従業員の年間平均雇用人員を含む ※従業員数は、2024年3月31日現在の人数です。
本社	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10
事業部	ばね生産本部、シート生産本部、 精密ばね生産本部、DDS生産本部、産機生産本部

グループ会社	54社(うち連結対象会社38社、持分法適用会社8社) 国内 23社 海外 31社
工場	横浜工場(ばね/シート)、滋賀工場、群馬工場、豊田工場、 厚木工場、伊那工場、駒ヶ根工場(DDS/産機)、 伊勢原第一・第二工場、宮田工場、野洲工場
分館	横浜みなとみらい分館
支店	北関東支店、浜松支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、 福岡支店
上場	東京証券取引所 プライム市場(証券コード5991)

株式の状況

(2024年9月30日現在)

発行可能株式総数	600,000,000株
発行済株式総数	244,066,144株
株主総数	12,563名

大株主

(2024年9月30日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	25,018	11.64
三菱UFJ信託銀行 退職給付信託 大同特殊鋼口 共同受託者 日本マスタートラスト信託銀行株式会社	22,392	10.41
双日株式会社	13,199	6.14
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	9,750	4.53
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 神戸製鋼所口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	9,504	4.42
大同特殊鋼株式会社	8,507	3.96
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	7,149	3.33
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	5,753	2.68
株式会社横浜銀行(常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	5,718	2.66
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	5,032	2.34

※持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

※当社は、自己株式29,048,527株を保有していますが、上記大株主からは除外しています。

取締役・監査役

(2024年9月30日現在)

代表取締役会長	茅本 隆司	社外取締役	末 啓一郎
代表取締役社長	上村 和久	社外取締役	田中 克子
代表取締役副社長	貫名 清彦	社外取締役	玉越 浩美
代表取締役副社長	吉村 秀文	社外取締役	古川 玲子
取締役	佐々木 俊輔	常勤監査役	豊田 雅一
		常勤監査役	水谷 直也
		社外監査役	海老原 一郎
		社外監査役	山田 祐子

執行役員(取締役兼務者を除く)

(2024年9月30日現在)

専務執行役員	佐伯 俊則	執行役員	力徳 和尙
専務執行役員	高村 典利	執行役員	池知 洋一
専務執行役員	堀江 雅之	執行役員	宮原 淳一
専務執行役員	梅野 純	執行役員	齋藤 達也
常務執行役員	立川 俊洋	執行役員	市川 乃樹
常務執行役員	一杉 守宏	執行役員	佐々木 良隆
常務執行役員	池尻 修	執行役員	岡 順一
常務執行役員	岡島 創	執行役員	三柳 暁
常務執行役員	田中 充	執行役員	石川 英男
常務執行役員	山口 昌由	執行役員	岡田 信一
常務執行役員	伊藤 洋二	執行役員	中村 剛
常務執行役員	斉藤 清一	執行役員	二宮 勇
常務執行役員	齋藤 則幸	執行役員	富永 潤

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当を行う場合は9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料)
郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 https://www.nhkspg.co.jp/

お知らせ

- 株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱できませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記 三菱UFJ信託銀行 証券代行部 にお問合せください。三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次いたします。なお、特別口座に記載された株式を売却するためには証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式を振替えるお手続きが必要となります。
- ただし、下記3.にご説明します単元未満株式(100株未満の株式)については、証券口座に振替をせずに売却することが可能です。
これについては三菱UFJ信託銀行にお申し出ください。
- 市場で売買できない単元未満株式につきましては、当社に対してご所有の株式を時価で売却すること(買取請求)、または単元株となるまでの不足株式数を当社から購入すること(買増請求)ができます。いずれのお手続も口座を開設されている証券会社等にお問合せください。なお、特別口座に記載された株式については、三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株主の皆さまの声を
お聞かせください

コエキク



当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 5991epnk



ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」✉ koekiku@pronexus.co.jp